

水泳部主将のボーイッシュおさななじみは

アイツシユおさなななじみは

僕のチンポにドはまり中♡



僕には幼馴染みがいる

成績優秀で、水泳部の主将。

端正な顔立ちに引き締まっ
た女性的な起伏に富んだ身体。

才色兼備で、学園のアイドル
だなんていわれ方もする

名前は、水咲亜矢





しかし今では高嶺の花だとか言われるようになって、
なんだか平凡な僕では一緒に居づらくて、
昔ほど一緒に居る時間は減った。



そんな彼女と、家が近くて
幼いころからずっと一緒に居た

ドクンッ
それでも僕たちは、
ある関係を持っていた。
ドクンッ



ニヤッ
ニヤッ



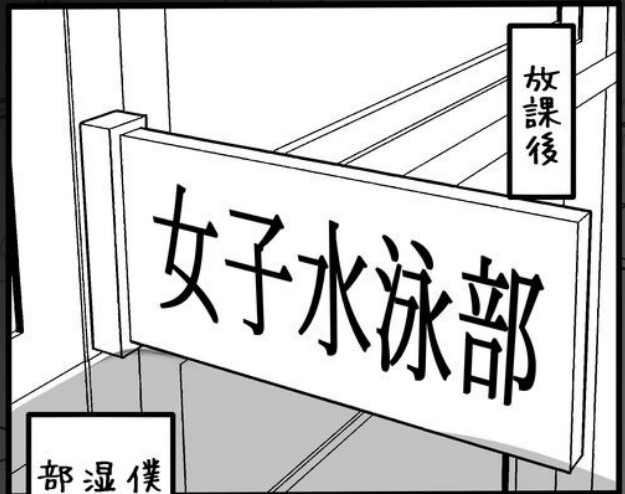
47

裕太、遅いよ...

47

はやく...♡

47!!



放課後

女子水泳部

僕は塩素の匂いと湿気に満ちた部室を訪れる



かチャ

かチャ...♡



お口、借りるね...♡

裕太の匂い、好きだよ♡

んんん

47 47

47

47

47



47

ぎゅー

47

部室に入ると彼女はすぐに抱き着いてきた



くちゅ

くちゅ

んちゅ

んちゅ

くちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

んちゅ

ニヤニヤ

ニヤニヤ

今日も嫌なこと
いっぱいあったからさ...

おん

裕太のおちんちんで
発散させてほしいな...

誘うような表情、
そのあまりの淫靡さに領くことしかできない

ムフ

ムフ

学園のアイドルで、
幼馴染みの彼女は

ムフ

ムフ

僕のチンポに
ドはまり中なのだった



始まりは
いつだっただろうか

確か●学生になった僕たちは
互いの身体に興味を持って
勢いで交わってしまった



僕も、彼女もその時の気持ちよさが忘れられなくて

飽きることなく、
その秘密の「アンビ」は続いている。





裕太のおちんちん、すごいよね...
昔はこゝまでじゃなかったのに...

学園のアイドルのキスを僕が独占していることに
どうしようほどもないほどの優越感と興奮がこみ上げる



誰のおマンコで
靡かれちゃったんだらうね...





すごい、願してるよ裕太...
いつでもボクのお口にだまひていいからね...

幼馴染の、お口便器に
白いおしっこ排泄しちゃおうよ...



出るっ!!
垂矢ッ!!

あっ!





ねえ、裕太のおちんちん、
まだ大きいまんまだね……

いやあさ、今度はボクのおマンコで
気持ちよくなっちゃうかい……?

47

47

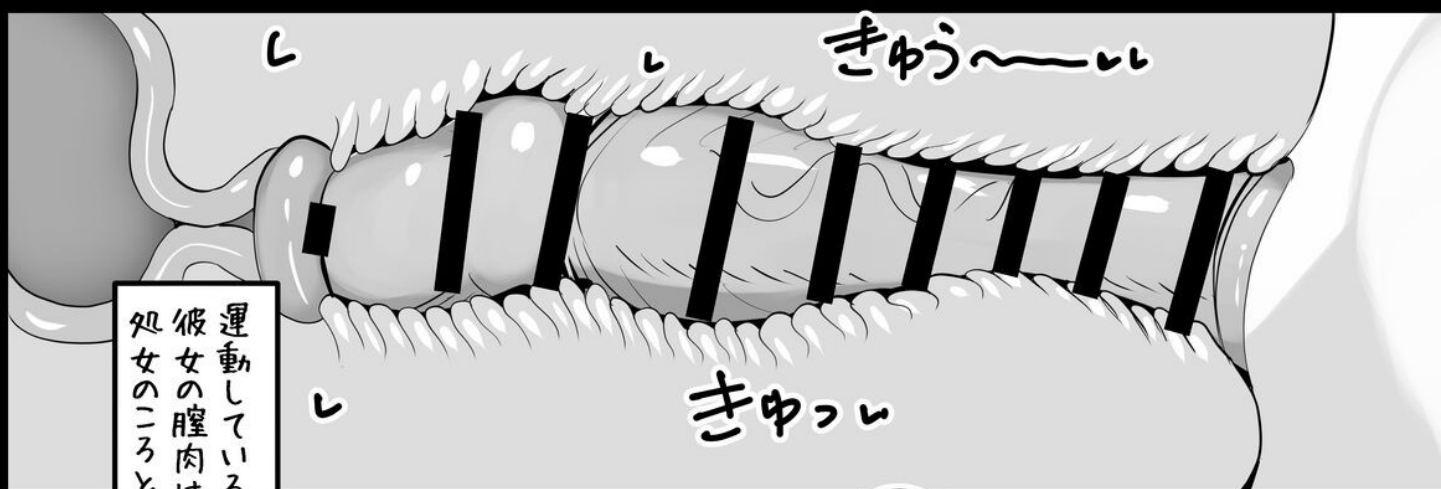
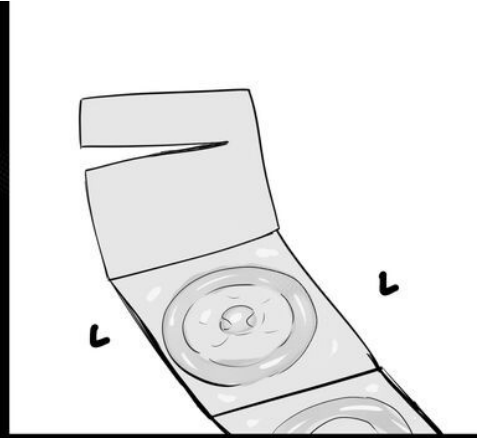
ほら…
おいで…

ちゅ

おちんちん

ト

ト



運動しているだけあってか、
彼女の膣肉は僕の肉棒にならな
れながら、
処女のころと変わらない締め
付け感で



ただ挿入しているだけでも気持ちがいい。



亜矢の膣中…
めっちゃ、絡みついてくるっ…

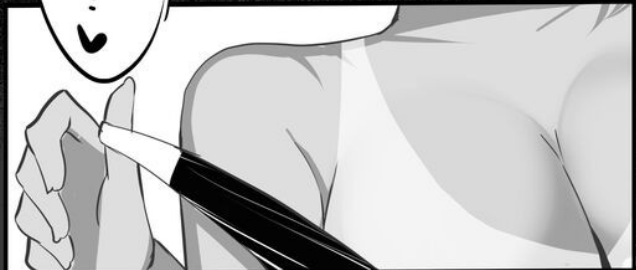


裕太のおちんちんめっちゃキクね…
ゴリゴリっておマンコほじられるの気持ちいい…

腰が動いた時に亜矢の口からは艶っぽい声が漏れて
それすらも僕の興奮を高める一助となった。



もう…おっぱい見過ぎ…



しょうがないなあ…

ほら、裕太の大好きなおっぱいだよ

そのおっぱいは日焼けのコントラストと少しだけ大き目な乳輪が得も言われぬ卑猥さを醸し出していた

ぽん

るん



裕太専用のメスマんに
ぶちまけちゃってよ……♡





亜矢はその肉棒に顔を近づけて、いやらしい舐め方で舌の上で弄び

そして最後に歯を立てた

れろれろ

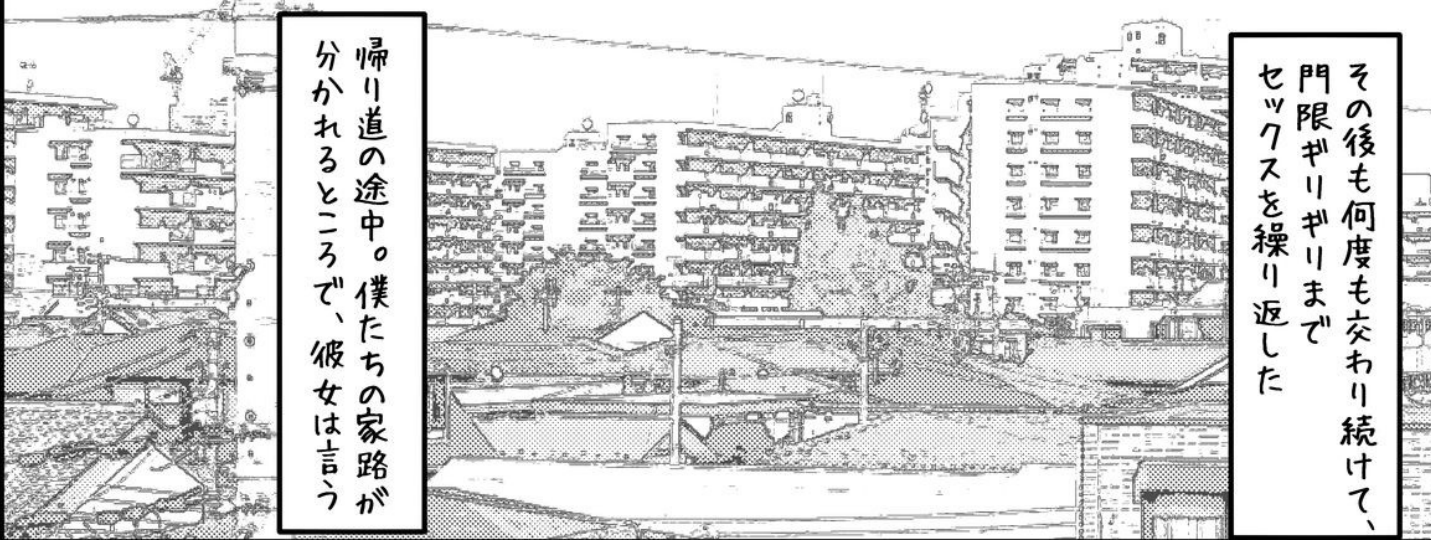


ちゅと彼女の中身を吸い出してあつという間にコンドームの中身が空になってしまう

……もっと、する？


当然、選択肢などなく、僕は領いた

ちゅ
ちゅ



その後も何度も交わり続けて、
門限ギリギリまで
セックスを繰り返した

帰り道の途中、僕たちの家路が
分かれるところで、彼女は言う



ねえ……

明日も、ボクのことよろしくね……？



ただ臆病だった僕は

今日も言えない言葉が喉に詰まって

その言葉を告げ翻る彼女の姿
この関係には、まだ名前がない

うん、また明日



言いたい言葉も飲み込んでしまった

翌日の昼、
僕はいつものように
屋上へと向かっていた

すると、階段を上った先
扉の前に立った時によく見ると
屋上に人がいることに気が付いた

どうやら告白のようだった。

あれは、亜矢と……
確か、サッカー部の部長？

顔を出すにも、
引き返すにも判断が難しいシーンで

僕は物陰でその様子を見ていた



でもたまたま見かけちゃっただけで……

アハハ、



裕太、覗き見は良くないよ

しばらくして、
その声をかけてきたのは亜矢だった



ほら、こっちおいでよ

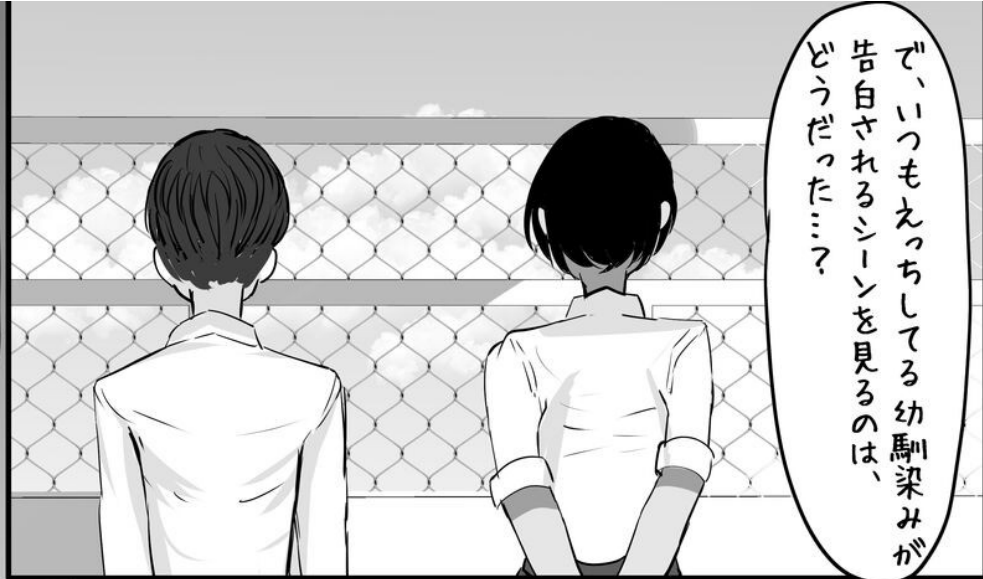
いよ





不安？

その、不安だったかな



で、いつもえっちしてる幼馴染みが
告白されるシーンをみるのは、
どうだった…？



そっかあ…

にゅっ

じゃあさ、安心させてあげよっか…？



亜矢が、他の誰かのものに
なっちゃうんじゃないかって

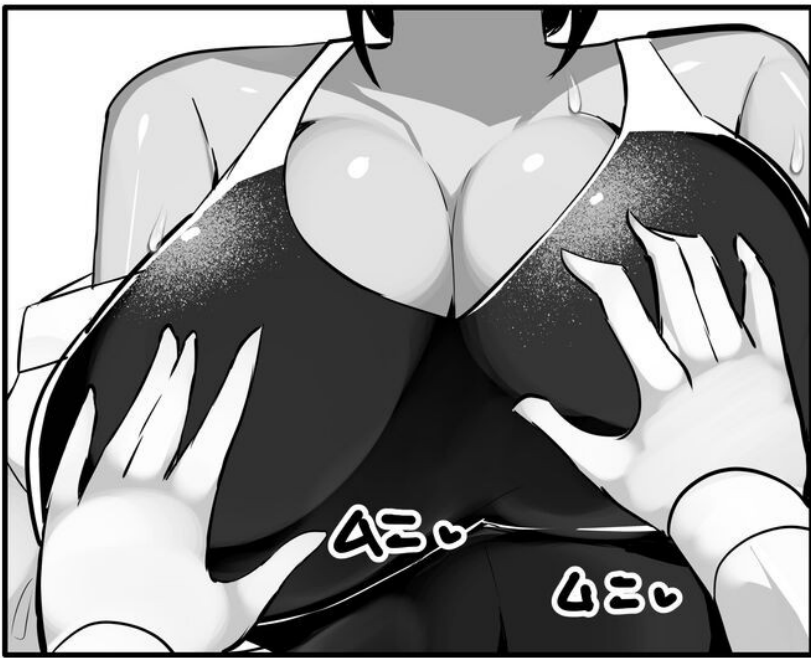


裕太の、すぐおっきくなっちゃうね……

何してほしいかい……？
ボクの身体なら何でもいいよ……

お口でも、あそこでも、おっぱいでも……、
本当に、どこでも









僕の前に跪くように亜矢はかがみと、
そのままおっぱいを両手で抱える



そろそろ、おっぱいで挟んじゃおうか……



すると滑り気と光沢のある淫猥なそれとなる。



元々うっすらと汗を掻いていた乳肌
さらに彼女の唾液を垂らして
左右になじませる



僕の肉棒に覆いかぶさるようにして
乳肉が一気に肉棒を包み込む



じゃあ、ボクのデカ乳で
気持ちいいパイコキ奉仕、するね♡



柔らかいマシユマロのような感覚が
肉棒にびっとりと絡みつく

そのままゆっくりとおっぱいが上下していく



僕はそれに対して何とか鎮く…



キミ専用の、ボクのパイズリオナホどうだい…？
気持ちいいかい…？

グニャ
グニャ

グニャ
グニャ

4ニ
4ニ



すると嬉しそうに…
亜矢はピースを上げてパイズリをし始める…

グニャ
グニャ

グニャ
グニャ



グニャ
グニャ

グニャ
グニャ



亜矢……っ、気持ち良すぎて……っ！

いいんだよ……？
ほら、ボクのおっぱいでもっと、もっと気持ちよくなってね……

ほらいっちゃえ……っ
水泳部のエースのチカ乳おっぱい……

せーえきでドロドロに汚しちゃえ……っ
裕太だけの、ボクのおっぱいにびゅびゅっって出しちゃえ……



腕を抱え込んでの激しいパイズリ。
みんなの憧れ。学園のアイドル。
そう言われる彼女の乳肉を、
極上の女体を堪能できるのは自分だけ……
その事実がどうしようもないほどの興奮を覚える

やばいっ、だすよっ……っ……





ボクも裕太のこと、
欲しくなっちゃった……

昨日あんなにシたのに……まだ欲しいんだ……
はしたない女だろう……？



ほら、見てよ、これ……
ボクのおまんこ、びしょびしょだよ……

お願いだよ、ボクのこと、
めっちゃくちゃにして欲しいんだ……







助けて、助けて……ってさ

にやり



喘ぎながら彼女は囁く



だって、ボク、えっちな女の子だもん……

裕太の手の届かない所に
連れて行かれちゃうかもね……

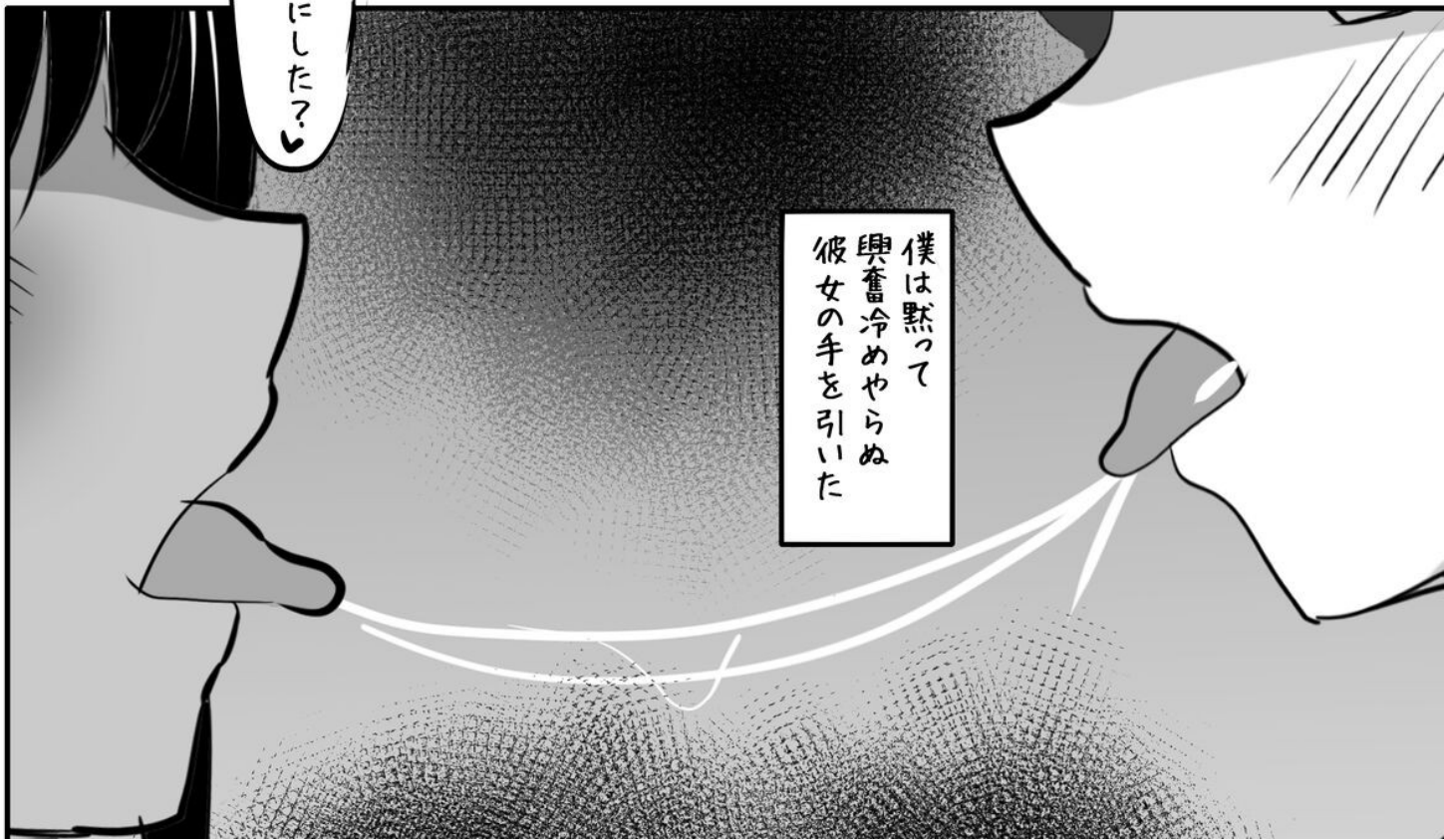
ぽん

ずる



なんてさ、……本気にした？

僕は黙って
興奮冷めやらぬ
彼女の手を引いた





……今日は親、いないから



夕暮れ時、西日が差し込む中
あの後の授業も
部活もほっぽりだして僕らは自室へと来ていた



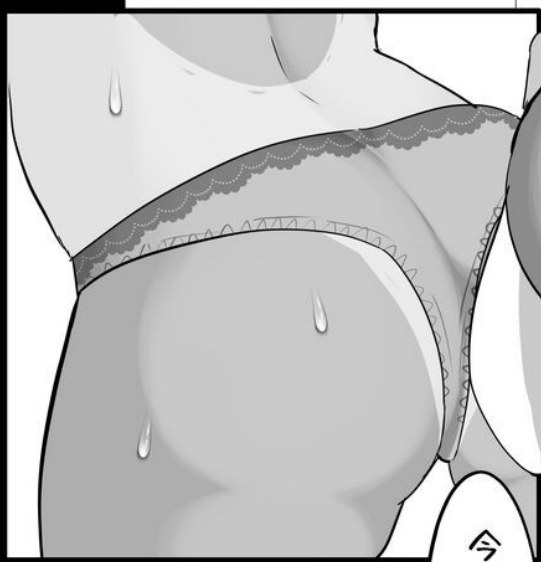
……なんだか、初めてしたときみたいだね

じゃーん、ほら

さっきウチ寄ったとき、着替えてきたんだよね

下着姿になった亜矢は
なんだかいつもよりも数割増しで可愛く見えた

今日はさ、ボクと朝までしょっか…





ゆっくりと亜矢の胸を揉みしだいた

んっ

あっ

もみ

もみ



ピンと張った乳首に触れると
優しく彼女のそれを捏ねる

んっ
んっ



僕はそのままもう片方の手で
彼女の秘所に触れるとくちゅりと音を立てた

ちゅっ



指をなぞる様に、
そしてゆっくり差し込むとそこは熱く蕩け、
壁の一枚一枚が絡みつくようだった

んっ

あっ

もみ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

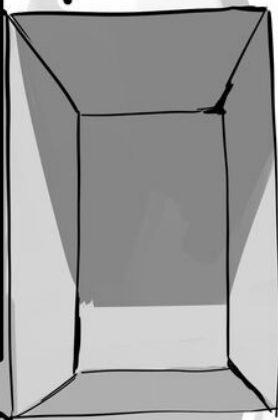


潮吹きしながら身体を仰け反らせる亜矢



そうして荒い息を吐く亜矢を見ながら、僕は彼女の両足を抱えるようにして、秘所にペニスを宛がう

かん...





その…

こんな時に言うことじゃないかもだけど
言っていていい？



うん…

僕は今まで言えなかった言葉を、
つかえつかえながらも
どうにか口に出していった



その、さ。
僕、ちゃんと責任取るよ……！

いままでも、
これからモサ



つまりいままでも、これからモボクは裕太のモノってことね……

うん、いいよ……

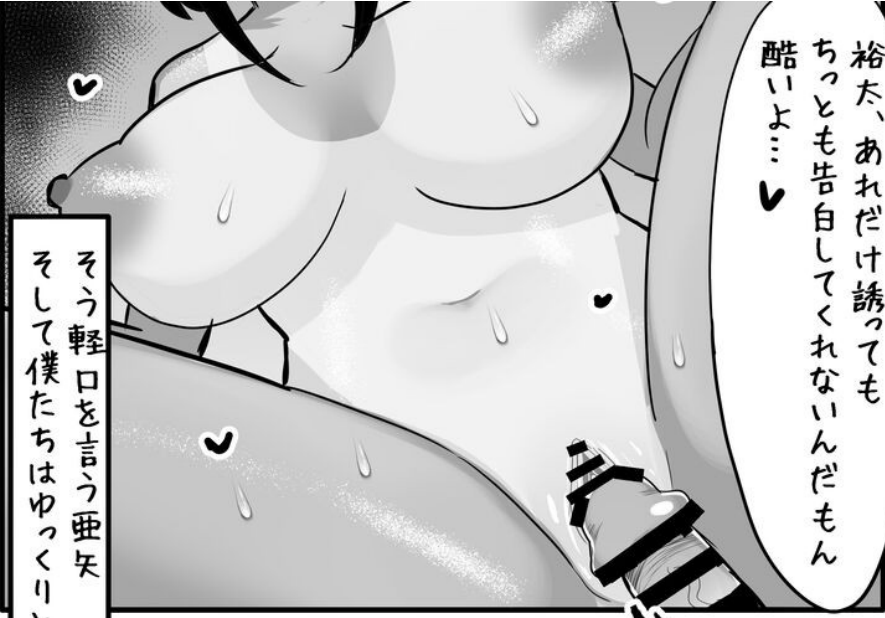


ばか……

急になに、恥ずかしいよ……



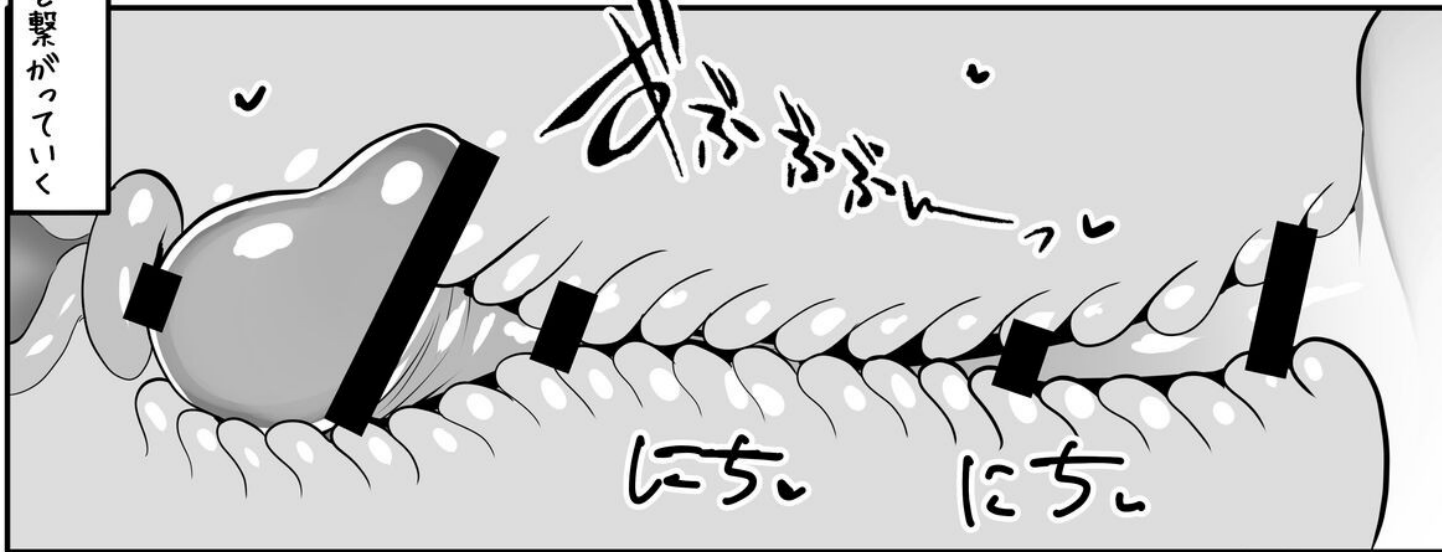
好きなんだ、亜矢のこと
僕だけのものになって欲しい……



裕太、あれだけ誘ってもちっとも告白してくれないんだもん酷いよ...



そう軽口を言う亜矢
そして僕たちはゆっくりと繋がっていく



初めてのナマえっちって、
なんだか、緊張するね...
おかしいよね
今までもいっぱいえっちしてきたのにナ

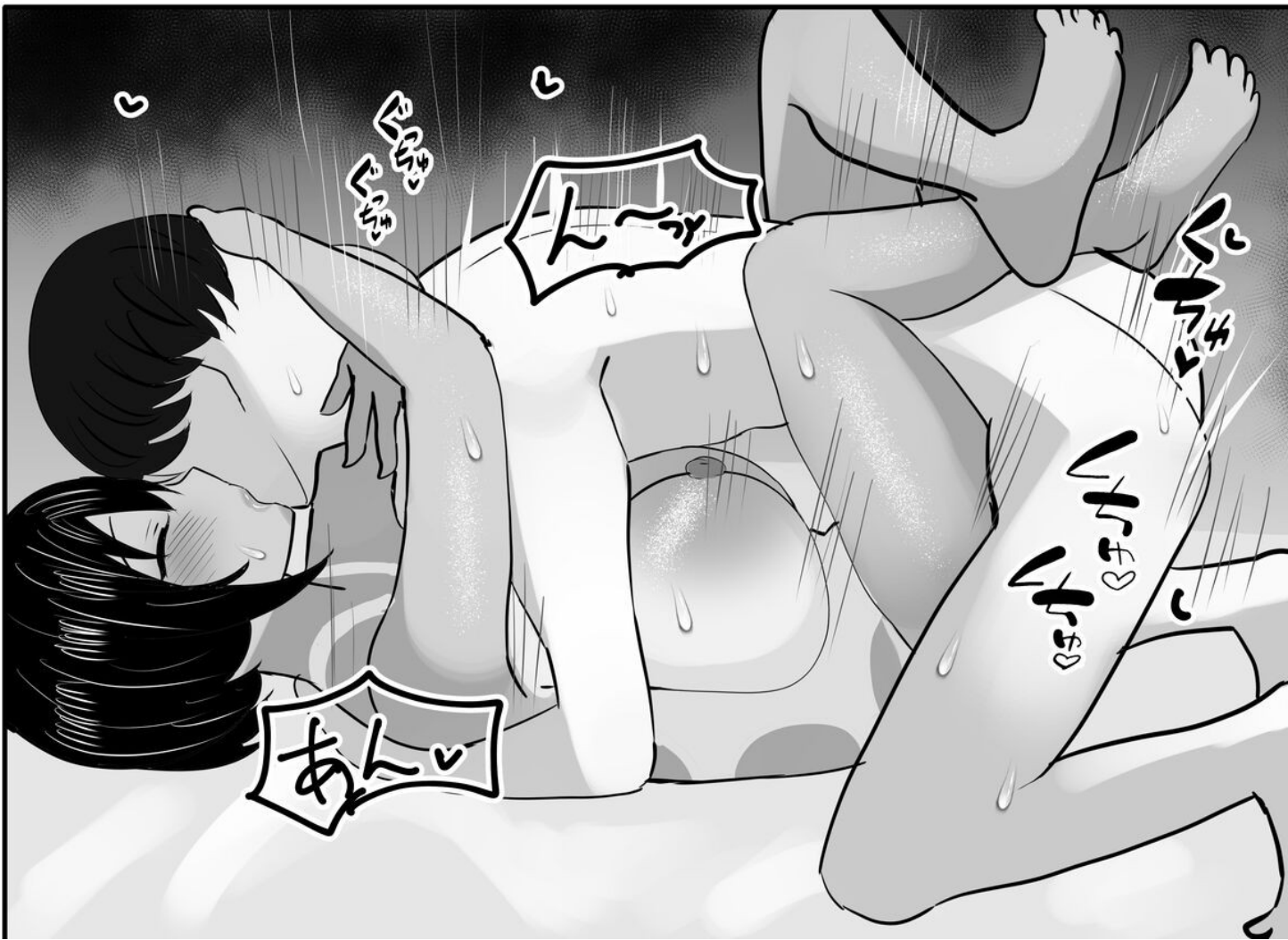
なんだか
すごい興奮するね...

にち

トキ

くち

くち





いっぱい出したね…

トク…

トク…

トク…

トク…

いいかな…

もっと、したい、なあ……
なんて……サ

トク…

トク…





うん
大好きだよ
亜矢、昔から



その後も何度も交わって
寝る前に言葉を交わす

裕太さ、そのさっきの。
本気なの？



そうだったんだ、ふーん……

実は私もね……



昔から大好きだよ……♡

「水泳部主将のボーイッシュおさななじみは僕のチンポにドはまり中」

発行年月日 2024/05/26

サークル名 ふわふわらいどう

mail:grandkick0050@gmail.com

印刷会社名株式会社サングループ

pixiv



cien



X
(twitter)



無断転載や違法アップロード禁止です

あとがき

ご購入ありがとうございます、ふわふわらいどうです
今回も結構ハードなスケジュールでの執筆となりました
なんとか原稿落とさずに脱稿しました！
次回は受かっていれば夏コミに
オリジナルエロ同人で出したいと思っています
想定している内容としては

- ①上位存在の女の子にたっぷり
ドロドロにあまやかしえっちされる本
- ②ジュニアアイドルメスガキ達と
インモラルいちゃえっちする本

のどちらかorどっちもという感じになってます
(直前で変更する可能性もありますが…)

よろしければXなどで感想など呟いていただければ
喜ぶと思います。

また次のページにおまけイラストを掲載していますので
よろしければ見てください。
(もしかするとメロンブックス様の方でグッズとして
出していただくかもしれません)

ありがとうございました！

Thank
you!!!



ふわふわらいどう